

「鳴尾ゴルフ倶楽部」アリソンによる
「猪名川コース」改造案

コース改造者：コルト、アリソン、モリソン共同設計事務所

担当者：チャールズ・ヒュー・アリソン

日時：1931年1月7日、現地調査、改造案の作成

翻訳／大塚和徳

私は猪名川コースの観察・調査を行い、コース改善の示唆を行うように依頼された。

コースは快適な環境のなかに造られ、プレー自体が非常に楽しくなるように造られている。残念なことは、プレーに使える面積がやや狭いことだが、ルートプランで地形を上手に使っており、私は、この面からの変更・改修は不必要と考える。

コース細部については、幾つものホールで改善の余地があるが、それらは大きな工事を伴うものではない。

1 番ホール

まず、ティーショットに絡む右側の樹木を除去すること。すでに計画されているように、フェアウェイを拡げること。1番ホールのグリーンは、すでに、個別の図面に従って、杭を打って示してある位置に新設すること。現存のグリーンはアプローチショットの地点から見えにくい。新しいグリーンの位置は素晴らしく、大きな工事を伴わずに魅力的なグリーンが建設されるものと思われる。

2 番ホール

まず、バックティーは放棄すること。杭を打って示された位置に3つの新しいティーを建設する。周囲の樹木を撤去して視界を拡げ、レギュラーティーの左端からグリーン左のバンカーの外輪の縁が見えるようにする。杭で示したように、グリーンの大きさは縮小すること。また、右側に新しいポットバンカーを追加し、深さは3フィートとする。ポットバンカーの後方には、次の3番ホールへ繋がる歩道を残すこと。その歩道の先に3フィートの深さのバンカーを造り、グリーンを取り巻くようにする。これを行うために、10ヤード四方にある樹木を除去すること。このバンカーはグリーンの右エッジまで接近させる。グリーン左側は既存バンカーを越えた位置に、すでに、考慮されているように、ボール止めの目的で新しいバンカーを設置する。

3 番ホール

左側の樹木を除去し、バックティーの左へ5ヤード前進させ、同様に、ティーから15ヤード以内の好位置を占拠している樹木も除去する。更に、ティーから見てフェアウェイの右側、約190ヤードの、杭を打ってある位置に新しく3フィートの深さのバンカーを造る。現在のグリーンはスロープが強過ぎる。このスロープは別の個別プランに示されているように傾斜を緩め、変更する。

5 番ホール

新しいバックティーを出来るだけ後方に新設する。もし可能なら、40ヤード後方へ移動させたい。



6 番ホール

グリーン右側の道路は廃止し、道路の直線的なラインは覆って取り壊す。大きな丘に三つの横尾根を造るが、そのうちの二つは現存の横尾根とリンクさせ、残りの一つは2つの横尾根の間に人工的に造られる。二つの新しいバンカーがグリーンの右に新設され、更に二つがグリーンの後方に追加される。これら全てのバンカーは、可能なら、3フィートの深さとする。グリーンの左部分は、かなりの面積を縮小させる。全ての低木を除去し、ラフの芝草のスロープはもっと低い位置まで下げる。

7 番ホール

ティーショットに絡むフェアウェイの右側で、ティーから260ヤード辺り、杭の打ってある場所にバンカーを新設する。更に、第2打に絡んで、2個のバンカーを、マウンドのある位置で、すでに杭の打ってある場所に追加する。また、グリーンの右側には、杭の打ってある場所にバンカー1個を造る。フェアウェイを横断している溝（ディッチ）は埋めること。現存するグリーン左のバンカーも埋める。最初の3個のバンカーの深さは全て3フィートとし、4個目のバンカーは1フィートとする。4個目のバンカー後方のマウンドの高さは5フィートとする。

8 番ホール

グリーン右側のバンカーは、杭を打って示してあるように拡大し、その深さは4フィートとする。

9 番ホール

バックティーの位置を現存のものより20ヤード後方に下げ、可能な限り右方向へずらす。グリーンの右側部分を、別の個別プランで示してあるように変更する。

11 番ホール

グリーン後方のバンカーの深さを2.5フィートとし、グリーン左側の2個のバンカーは3フィートとする。

12 番ホール

グリーンの大きさを縮小し、杭を打って示してあるように、バンカーがグリーンのフロント部分の全てを囲むように変更する。グリーン後方の樹木は全て取り払って、丘陵の全てが視界に入るようにする。前方のティーを2個新設して、距離は各々、約145ヤード、約120ヤードとする。

13 番ホール

グリーンの後方部分を、杭を打って示してあるように、やや縮小し、グリーン後方のバンカーを拡大させ得る余地を造る。また、グリーンの後方に3フィートの高さのマウンドを造る。ボールがグリーンへ転がりやすいスロープとなるように、傾斜角は7分の1とする。また、杭で示してあるように、グリーンの前方に2個のバンカーを造り、更に、左に2フィートの小さなマウンドを造る。

14 番ホール

フェアウェイの中央にある樹木を撤去する。距離のある第2打としては、グリーンへのスロープが急過ぎる。これを解消するため、幅24ヤードで、長さ約4フィート程、部分的に窪地を埋め、グリーンへの傾斜角が約10分の1となるようにする。



15 番ホール

新しいバックティーを道路の反対側の高台に造る。グリーン前方のバンカーは埋めること。右のバンカーはグリーンへ食い込むように拡大する。ポットバンカー2個を新設し、杭で示してあるように、一つはグリーンの左、一つはグリーン後方で、深さはいずれも 2.5 フィートとする。更に、グリーンの左側及びプレーラインの左側の樹木は全て除去すること。

16 番ホール

出来るだけ後方にずらした位置に新しいティーを新設する。ティーショットで右に絡む樹木は 15 ヤード以下に切り倒すこと。同時にフェアウェイも右の方向に 15 ヤード拡げること。

17 番ホール

ティーを新しく 20 ヤード下げた位置に新設する。新しいバンカーを二つ、4 フィートの深さで、大きな土手の正面に建設すること。その一つは右に、もう一つは左にいずれもティーから約 180 ヤードから 200 ヤードの位置とする。フェアウェイの中央部分にある樹木は撤去すること。グリーンの前面に深さ 5 フィートのバンカーを一つ建設する。また、グリーンの後方に高さ 5 フィートのマウンドを造る。同様に高さ 3 フィートのマウンドをグリーンの右に建設する。これらのマウンドは傾斜角 5 分の 1 でグリーンに流れ込むようにする。グリーン後方の樹木は全て取り除くこと。

18 番ホール

フェアウェイの右部分で、ティーショットに絡む位置、ティーから約 220 ヤードの場所に、深さ 3 フィートのバンカーを造る。グリーンの後方に高さ 7 フィートのマウンドを建設し、その末尾は 5 分の 1 の傾斜角でグリーンに流れ込むようにする。グリーン前面には深さ 2.5

フィートの大きなバンカーを置き、バンカー面はグラウンド面より高くする。このバンカー面の高さは左から右へ、4 フィート、2.5 フィート、6 フィートと変化させる。

このバンカーの後方部分は、グラウンドレベルのグリーンへ流れ込むようにするが、その傾斜角度は 6 分の 1 とする。このバンカーの左側部分は狭い帯状のフェアウェイとなっており、更にその左側は丘陵面に食い込んだ大きなポットバンカーで 3 フィートの深さとする。

全般的なコメントとして、プレーヤーができるだけボールを失わないようにするため、また、アンプレヤブルの位置にボールが行かないようにするため、コースのラフの部分の改善が望まれる。コースの改修はすでにこの方向で動いており、更なる改修が考えられていることも知っている。私はこの改修作業に大きな賛意を示している。現状では、小さなミスショットにも厳しすぎる結果が待っている。

現在進められている改修工事が完了した時点では、このコースは大きな楽しみを与えてくれるであろうし、曖昧なホールはなくなるだろう。しかし、同時に、コースは適度に厳しい“テスト”の場となるだろう。